唐詩薏（トウ・シヨク）、初個展がステップスとなった。シヨクは 1992 年台湾出身、2015 年中国美術大学（光州）デザイン学科卒業、2016 年 3 月、東洋言語学院卒業。2016 年 4 月、嵯峨美術大学大学院修士課程造形研究科造形絵画分野入学。2018 年 3 月、同修士課程修了。修了作品が大学院賞を受賞。2018 年 10 月 東京芸術大学大学院研究生。中国美術大学とは、日本で言えば東京芸術大学である。しかしシヨクはファッションデザインで卒業した。東洋言語学院ではどのコースに進学すべきか悩んだが、私は現代美術を薦め、特に先鋭的な嵯峨美術大学に入学した。嵯峨美術大学大学院修士課程 1 年目中間講評会では平面を、1 年修了制作展ではアニメーションを、2 年中間講評会では実写作品を、修了制作展では本作を出品した。

シヨクの作品の主題は時空の超克であり、中国の神話の《胡蝶の夢》を想起すれば分かりやすい。荘子の「無為自然」がよく表れている。「無為自然」は「逍遥遊」という、目的意識に縛られない自由な境地のことであり、その境地に達すれば自然と融和して自由な生き方ができると荘子は説く。シヨクはこの発想を現代においてアインシュタイン、ホーキングらの現代物理学も含めて研究している。

ステップスギャラリーオーナー吉岡まさみのブログでの作品分析が凄まじく、私が書く必要が必要なくなっている。（http://stepsgallery.cocolog-nifty.com/blog/2018/08/post-d797.html）。修了制作展の会場ではスクエアな空間に展示したので、また見る感覚が異なった。この作品に映し出される三つの映像は凡庸でありながらも、凡庸であるからこそ我々は普段生活していて見ない、見えない、感じている空間の雰囲気が明らかになる。つまり私達は生きながらも死んでいて、死にながらも生きながらえ、現実と思い込んでいる時空と別の場所にいることが理解される。難しい話ではない、ぼーっとしている時と集中している時に見える、感じるものが違うという、誰にでもある経験なのである。シヨクは映像を撮りたい訳ではない。いずれ絵画に戻るであろう。シヨクの芸術に、これからの未来が託されている。